

GeoCoach3D (DM 三次元エディタ)

GeoCoach3D(ジオ・コーチ・スリーディ)は DM データファイルの 3 次元エディタです

(1) 2つのプロセスを実装

DMデータファイル作成でのストレスとコスト削減のポイントは2つのプロセスです。

- ・ [一括処理-リストアップ-確認]
- ・ [チェック-リストアップ-確認-修正]

あなたは、次のことを明確に区別されていますか？

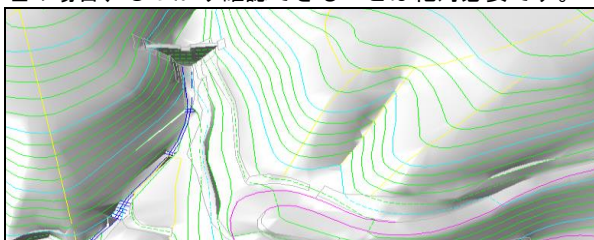
- ・ 一括で処理できること
- ・ ひとつひとつつやならなければならないこと

一括でできることを一括で実行すれば、コストが下がることは当然です。ミスも入りにくくなり、ストレス削減にもなります。どれだけ一括処理が実現していますか？細心の注意を払って作業されているからこそ、疲労が蓄積し、ミスを生発してしまいます。ミスが出て当然と考えるべきです。ポイントは、ミスをいかに早く確実に検出し、その場ですばやく修正できるか、です。

(2) [一括処理-リストアップ-確認] プロセス

三次元要素の交差部分の標高値をあわせたり、要素が接合する所でノードを発生させたりします。要素内の点の重複の削除、要素間の重複の削除。また、CAD 系からの DM への変換での数値の丸めによるズレを修正することなどです。

一括処理後、変更した要素をリストアップし、変更点を 3D 表示するので、変更点の数や分布など一目で確認できます。リストの項目を選択することで、該当する箇所を画面中央に表示し、**3D 表示で確認**できます。一括処理の場合、しっかり確認できることは絶対必要です。



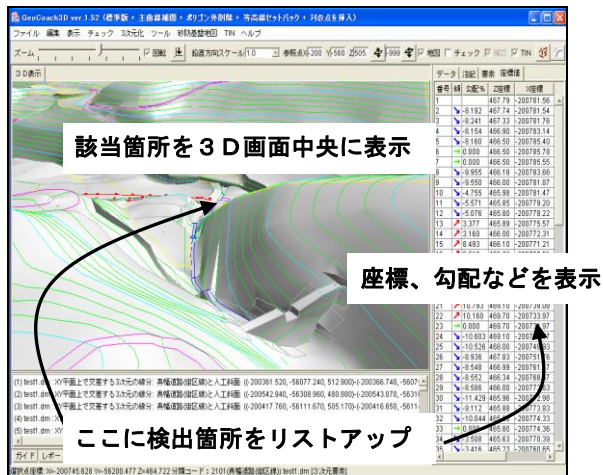
3Dゲームと同様、ハードウェアの3Dエンジンを使い、スムーズな回転・ズーム・スクロールで確認できます。

(3) [チェック-リストアップ-確認-修正] プロセス

ソフトウェアで検出できるミスはソフトウェアでやるべきです。その場で確認し、修正する機能も運動しなければなりません。そうしてはじめて、安心して作業ができ、ストレスも小さくなります。検査と修正の時間が短くなり、トータルコストも下がります。

多種多様なミス入力箇所が自動でリストアップされて、該当箇所を 3D 表示と座標属性などの表示で確認し、修正メニューも提示されるなら、どれほどのメリットがあるでしょうか？砂防新法や測量技術センター検定の対応、具体的には、標高値の矛盾や線の交差など、問題箇所を

リストアップします。項目を選択すれば、該当箇所を画面中央に表示し、状況が 3D で確認できます。

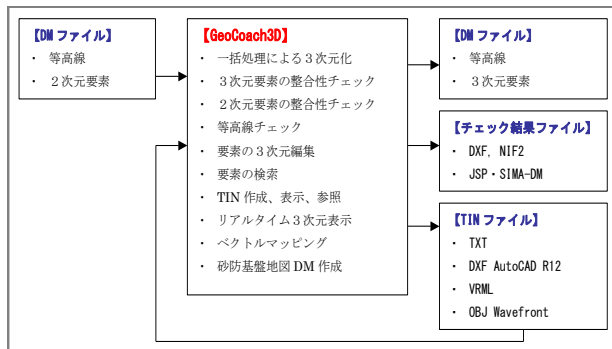


(4) 3Dによる確認

3次元の要素の確認には3D表示は必要不可欠です。3次元要素から TIN を発生し、重ねて表示するので、標高値がおかしい箇所を目視でも発見できます。確認したい地物をダブルクリックすれば、それを中心に視点の回転やズームなどができるなど、見たい地物に注目できる表示操作になっています。重なった要素を識別するため、選択されている要素を一時的にZ値を変えて表示するなど3D表示でなければ不可能な確認方法も提供しています。

(5) 連携

GeoCoach3D は DM データファイルをリードし、DM データファイルを出力します。DM が持っている情報を生かした編集機能を提供しています。また、問題箇所は DXF などのファイルで出力するなど、既に稼働しているアプリケーションとの連携して、システム全体でより効率的な DM データファイル作成を支援します。



有限会社ジオ・コーチ・システムズ

〒730-0802 広島市中区本川町3丁目1番5号 ポートインクO5号室 TEL/FAX 082-208-0539

E-mail info@geocoach.co.jp URL <http://www.geocoach.co.jp/>